

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

| | |
|---|--|
| 計画名 Plan | Tutzing basal metazoan workshop 2023 への参加と研究発表 |
| 氏名 Name | 上田 智之 |
| 研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level | 理学研究科 生物科学専攻 修士一回生 |
| 渡航国 Country | ドイツ |
| 渡航日程 Travel schedule | 2023年 9月 14日 ~ 2023年 9月 23日 |

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本海外渡航の目的は大きく分けて以下の2点である。

- ① 国際学会“International Workshop Evolution of resilience, regeneration, and animal complexity - insights from basal metazoans”に参加し、自身の研究内容についてポスター発表をし、海外の発生生物学者と議論をする。また他の発表に対し積極的に質問、議論する。
- ② 現在、指導教員の船山博士が共同研究を行なっているLudwig-Maximilians-Universität München（ミュンヘン大学）のDr. Sergio Vargasとの議論に参加し、自身が国内研究者と別途行っているRNAseqの解析の進め方について学ぶ。

以下の表に簡単な渡航計画を示した。

| 日程 | 内容 |
|------------|--|
| 9月14 - 15日 | 日本からドイツへの移動 |
| 9月16日 | Tutzing への移動 |
| 9月17日 | Dr. Maja Adamska (Australian National University) とのディスカッション |
| 9月18 - 21日 | “International Workshop Evolution of resilience, regeneration, and animal complexity - insights from basal metazoans”に参加 |
| 9月20日 | ポスター発表 |
| 9月22日 | Dr. Sergio Vargas (LMU Munchen University) とのディスカッション |
| 9月22 - 23日 | ドイツから日本への移動 |

成果 Outcome

申請者のポスター発表の内容について、カイメン動物の研究者である Dr. Maja Adamska や Dr. Jacob Musser、Dr. Roger Revilla-i-Domingo、そして刺胞動物の研究者らと議論することができた。国内にはカイメンの研究者がほとんどおらず、カイメン動物を使って発生学、進化発生学を研究する方々から疑問点や助言をいただいたのは、非常に有意義であった。またカイメンだけでなくヒドラやネマトステラといった Basal metazoan に属する生物種に関する最新の研究内容を口頭発表から学ぶことができ、さらに議論することができたため、非常に充実した時間を過ごすことができた。

Dr. Sergio Vargas とは今回発表した内容と別で進めている研究について、ディスカッションすることができた。さらに Dr. Sergio Vargas の研究室を見学させていただき、カイメン動物に関する最新の研究室設備を知ることができた。

加えて Dr. Maja Adamska とは9月17日に時間をかけてディスカッションさせていただいた。今回発表

した内容とは別で進めている「ある細胞種特異的に発現する遺伝子の解析」という研究に関して、その進め方や注目する遺伝子について助言を得ることができた。同時に Dr. Maja Adamska が現在進めている研究内容についても、workshop での口頭発表内容よりも詳しく知ることができた。

今後の展望 **Prospects for the future**

今回いただいた助言や行った議論を参考にして研究を進める。ポスター発表の内容について、実験方法を新しく提案していただいたので、それを参考にして研究を進めようと考えている。また「ある細胞種特異的に発現する遺伝子の解析」に関しては、Dr. Maja Adamska から研究をスピーディーに進めることのできる方法を教えていただいたので、その方法を活用して研究を大きく進めようと考えている。

加えて、英語を使用して研究内容について議論することができたという経験は、今後、申請者が研究者として成長していくうえで非常に大きな経験となった。今後もこの経験を活かし、海外の研究者とも積極的に交流することで研究を進めていきたい。